

会議議事録

会議名	2023年度第2回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2024年2月26日(金) 14:30~16:30
場所	本校1階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員:丸山泰一委員(社会福祉法人池上長寿園専門参与)、戸嶋哉寿男委員(杉並定期巡回連絡会代表) ②本校委員:川口拓也(校長)、榊原幸之(事務局長)、松田 朗(介護福祉科学科長) 中嶋純也(介護福祉科教員)、渡辺愛子(介護福祉科教員)(計5名) ③委員会事務局:土屋瑠美子 菅谷久美子 (参加者合計9名)
欠席者	なし
配付資料	事前送付:資料1:2023年度第1回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料2-1:2023年度第1回委員会以降の主な経過報告、資料2-2:2023年度就職状況の報告、資料2-3-1:授業アンケート結果2023、資料2-3-2:看護科介護福祉科合同授業、資料2-4:2023年度介護実習の報告、資料2-5:2023年度国試受験報告、資料2-6:2023年度教員研修計画・実績(介護福祉科)、資料2-7-1:1年生自己評価報告2023年度、資料2-7-2:2年生自己評価報告2023年度、資料2-7-3:国試対策アンケート調査結果、資料3:2024年度学事日程(確定版)、資料4:介護実習計画2024年度、資料5-1:カリキュラム2023年度生、資料5-2:カリキュラム2024年度生、資料5-3:カリキュラムマップ2024-2025(1)
議長	松田学科長
議題等	1. 校長挨拶 教育課程編成委員会は、文部科学大臣が認定する職業実践専門課程の資格要件、機関要件となっている。これをクリアすると高等教育の無償化にもつながり、学校にとっても高校生たちにとっても大きな意義がある。現場(出口)からの意見を聞いて教育課程に反映させていく重要な機会と捉えている。 介護福祉科は、どの学校も定員を満たさない状況が続いてきたが、来年度は海外からの留学生を含めて定員を充足する見込みである。本日は、いろいろな報告もさせていただき、ご質問、ご意見をいただき、カリキュラムに反映させていきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認(資料1) 特段の訂正事項はなく、個人情報等に配慮して公開することが了承された。 3. 2023年度の活動報告等 (1) 前回委員会以降の主な経過(資料2-1) (2) 就職状況報告(資料2-2) (3) 授業アンケート(資料2-3-1、2-3-2)

- (4) 介護実習報告（資料 2-4）
- (5) 第 36 回介護福祉士国家試験受験報告（資料 2-5）
- (6) 教員研修実績（資料 2-6）
- (7) 課題達成度・学生自己評価等（資料 2-7-1、2-7-2、2-7-3）

松田学科長、中嶋教員より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 2024 年度介護福祉科学事日程（資料 3）

松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。

5. 2024 年度介護実習日程（資料 4）

松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。

6. カリキュラム

- (1) 2023 年度生カリキュラム表（資料 5-1）
- (2) 2024 年度生カリキュラム表（資料 5-2）
- (3) カリキュラムマップ（資料 5-3）

松田学科長より資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 次回日程、その他

次回の日程について了承され、閉会した。

以上

2023 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2023 年度の活動報告等

○松田学科長、中嶋教員より、資料に基づき以下の補足説明があった。

(1) 前回委員会以降の主な経過(資料 2-1)

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・出願者が増えた要因は何か。 ・日本人と外国人の比率はどうか。 ・在学生の紹介にはインセンティブをつけているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、事務局で日本語学校を含め高校訪問を熱心に行ったほか、教員が出前授業をするなど、積極的に遠くまで出かけていったことが増につながったと考えている。 ・実際の入学者はほぼ半々である。 ・オープンキャンパスに参加した方の出願率が高い。今後は、在学生の紹介による出願促進を狙っていきたい。 ・入学者に教科書代としてのクーポン、紹介者にギフトカードを渡している。

(2) 就職状況報告(資料 2-2)

・例年と変わりなく施設を希望する学生が多いが、デイサービスやグループホームを希望する学生も一定数いた。明確な意向を持って就職活動をする学生が増えてきたと感じている。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・老健施設が 3 人で、他の施設より多い理由は何か。 ・実習先以外に就職したケースはどのくらいあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入施設で、あらかじめ 3 名の就職を予定した上で本校に入学している。 ・10 カ所ある。かつては実習先に就職することが多かったが、今は SNS やネットで情報を集めて、教員に相談に来る学生もいる。

(3) 授業アンケート(資料 2-3-1、2-3-2)

・総じて学校全体の平均値よりやや上回っている。

(看護科との合同授業について)

・介護福祉科の教員 3 人と看護科の学科長を中心に打合せを進め、年内に企画から実施、評価まで行うことができた。

・「多職種連携」と「合意形成」をキーワードに、カンファレンスに必要なコミュニケーション能力を

身につけることを目標にした。

- ・テーマは、お互いが知っていてアプローチしやすい「褥瘡」を選んだ。
- ・介護は1年生・2年生、看護は2年生の3クラスが参加し、全部で70名を10グループに分け、話し合いの過程をパワポでまとめたものを提出させた。
- ・看護に圧倒されるかと思ったが、意外と介護の人がリードしていたりして、それぞれ楽しくできたのではないかと思う。
- ・アンケートでは、「やってよかった」という評価が75%に上った。授業を通しての気づきを問う質問には53件と一番多くの回答があり、お互いの視点や観点というキーワードが多く書かれていた。こちらの意図も反映されており、やったかいがあったと思っている。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none">・同じテーマでも、看護が考える印象と介護が考える印象は明らかに違っており、「医療的なアプローチ」「生活のアプローチ」という言葉が飛び交っていたことに大変驚いた。・学校の特徴にもなるので、今後他の学科にも広げていければと思う。・看護科の教育課程編成委員会で、外部の有識者の先生からも「ぜひ続けたほうがよい」と言っていた。・お互いの共通項と違うところという視点で言えば、留学生とのコミュニケーションをうまく取っている介護福祉科の学生のすごさを体感した。・事前資料を読んで、これはいいと思った。お互いが視点の違いを分かった上で連携していくという、多職種連携を学生の頃から経験するのは素晴らしいと思う。・前回話をした「いえラボ」は、1回だけでなく、4回目ぐらいに効果が出るらしい。短くてもよいので複数回やるとよいと思う。	

(4) 介護実習報告（資料2-4）

- ・今年度も全て実習先に行くことができている。
- ・第2段階、第3段階の実習は自宅の近くや最寄り駅から通える範囲の施設で調整している。その場合、実習先が就職につながる可能性は高いかもしれない。

(5) 第36回介護福祉士国家試験受験報告（資料2-5）

- ・昨年度（第35回）に比べると少し残念な結果だが、試験内容の難易度が上がっていると感じた。今

年度は総じて留学生の日本語能力が伸びなかったと反省している。

- ・学習意欲の低い学生に対する意識づけと、留学生一人一人に対する学習支援を課題として、次年度はデジタル教材なども用いながら学習習慣をつけていく働きかけを行いたい。
- ・日本介護福祉会が特定技能の職場研修の一環として学生向けに運用している無料のサイトがある。これまでは個人に委ねていたが、次年度はそれを学科として運用していけたらと考えている。個人のスマホ、パソコン、タブレット等のデバイスを用いていつでも学べる。教員がチェックできる機能もついているので、学習習慣をつけていく助けになると思う。

(6) 教員研修実績（資料 2-6）

- ・総じて学生中心の内容で、特にメンタル面のサポートが重視されているのと、留学生問題が取り上げられている。

(7) 課題達成度・学生自己評価等（資料 2-7-1、2-7-2、2-7-3）

- ・介護福祉士として共有することができる、協働することができる、創造することができる、満足解思考ができるという4つの課題に対して、学生の自己評価をまとめた結果である。
- ・1年生は課題1が約50%、課題2が約40%、課題3が約35%、課題4は真ん中より少しできたと思っている学生と、真ん中ぐらいという学生を合わせてほぼ半数となっている。
- ・2年生は、1年生のときと比較して総じて理解度、自己評価ともに上がっている。
- ・学習活動の取組としてはある一定の成果が得られたと思う一方で、国家試験レベルには届かなかった部分があることを反省している。
- ・専門職としての態度や技能は一定レベルの基礎力は身につけていると考えているが、知識レベルではかなり個人差が出てしまった。
- ・国家試験対策についてのアンケートでは、過去問を多めにやってほしい、通常の授業の中でも国試対策をやってほしい等の意見があった。すぐに取り組めるところから反映させていきたい。

6. カリキュラム

○松田学科長より、資料に基づき以下の説明が行われた。

(1) 2023年度生カリキュラム表（資料 5-1）

- ・「生きがいと地域社会」という科目がスタートを切る。介護の現場でいかに生きがいを実現するかは介護福祉士の本質に関わることだと考えている。

(2) 2024年度生カリキュラム表（資料 5-2）

- ・「認知症の理解」が、前半（基礎的な内容）と後半（現場重視の内容）に分かれた。
- ・実地研修を希望する学生のために「医療的ケアⅢ」を選択科目として用意した。

(3) カリキュラムマップ（資料 5-3）

- ・今年度は、「Happy介護＝介護福祉士は幸せづくりのプロ」を前面に出して、学生に介護の楽しさ、価値、目的などを伝えてきた。次年度も継続して展開していきたい。
- ・介護福祉科のポリシー、全体のカリキュラムの構成、自己評価の項目や課題、評価基準に大きな変更はない。
- ・次年度に向けて、ペーパーレス化、DX化の取組を進めていく。具体的には「介護実習支援システム」を導入し、学生、教員、実習指導者がシステムの中でデータのやりとりができるようにしたい。留学生にとって日本語を書くことの負担を軽減するほか、指導者の作業の省力化も期待できる。

○質問・意見と回答等

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉科で先駆的にやってみて、反応がよければ看護科などでも導入できる。 ・費用は大分高いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護科も興味を持っている。1年間の実習の報告書、指導者側はコメントを手書きするのが大変なので、導入すれば相当省力化につながると思う。 ・初期費用は20万円ほどで、あとは学生一人当たりの金額5,000円で2年間サービスが利用できる。
<p>(その他意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護の実習を再開したいと思っているが、何名ぐらいお引き受けいただけるか。 ・「医療的ケア」を教えるに当たり、施設側では医療的ケアを受ける利用者が少し減った印象がある。訪問介護の現場ではどうか。本当に必要とされていることが分かれば、伝え方が変わってくるし、学生にも見学させていただけたらと思う。 ・学校の卒業と同時に免許を持っていればプラスになるという考えでよいか。 ・要介護4、5の方は、今どこに行っているのか。 ・コロナ前には、私が住んでいる自治体では特養の待機者が三桁ぐらいいた。減った理由は何が考えられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日当たり3人はいけるのではないかな。 ・就職先として訪問在宅や定期巡回も見ていただき、面白いと思ってもらえるとうい。 ・ニーズはある。施設に戻れなくなったときに吸引できる事業所を探すのは大変なので、吸引ができる介護職が増えるに越したことはない。 ・すごくプラスだと思う。 ・経営的な問題から医療的介護の人を受け入れる施設は多くなっていると思う。 ・有料老人ホームや、医療特化型の有料施設などに行っている。実際に特養の待機者はすごく減っている。 ・有料やグループホームなどの施設系が増えたのと、特養に入るまでに時間がかかればかかるほど、待機者は他に行ってしまう。 ・以前は特養は安かったが、ユニットになってからあまり差がなくなってしまったことも有料に取られてしまう理由かもしれない。

<ul style="list-style-type: none"> ・虐待については研修を重点的に行っていると思うが、現場のレベルで虐待の現状や動向はどうなっているかを伺いたい。 ・それが虐待につながることはないと思うが、自分の考えや気持ちを素直に出すことが少なく、分かりづらい部分が多い。語彙も少ないので、介護職として最も重要なコミュニケーション能力を高めていくことが難しいと感じている。 ・以前に比べて職員の熱心さも少し下がっているという声を聞くが、感じているか。 ・訪問介護の虐待についてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通報する義務もあり、管理者が一番目を光らせている。教育にも力を入れているが、虐待が発生したときにいかに早く発見し、連絡を上げる流れをつくるかが重要だと思う。 ・介護する人たちの意識もこの5年ぐらいで大分変わってきていると思うが、学生のほうの変化はどうか。 ・合同授業で合意形成の話をされたが、これはとても大事なことで、今は利用者との合意形成もできなくなっている。高齢者とうまく合意形成ができないと虐待につながる。相手を知り、言葉でコミュニケーションを取るという意味で、合同授業の取り組みはすごくいいと思う。 ・とても感じている。そこはまずいと思って言葉を発している。 ・現場で聞くことはほとんどない。対策に関する意識は高まっていると思うが、根本はコミュニケーションの不足が要因だと思う。 ・在宅では、家族による虐待にどう対応するかが課題で、難しさを感じる。
---	--

以上